

大阪・関西万博開催に向けた意見

御所属 関西広域連合連携団体 福井県知事 御名前 杉本 達治 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- **関西にとどまらず、全国から特色ある資源や技術、人材を結集して新たな価値を創出。その成果を活かして、万博後も都市や地方の間で人の行き来がさらに活発化し、関西全体の持続的な発展につながることを期待**

2025年万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、サブテーマ「多様で心身ともに健康な生き方、持続可能な社会・経済システム」に沿って、関西を超えて全国から特色ある資源や技術、人材を万博に数多く集めて発信するとともに、それぞれの融合を図り、新たな価値を創出していくべき。

福井県は、とくに嶺南地域と関西とのつながりが強く、健康長寿を支える薬草や自然素材を活かした食文化など特色ある地域資源が豊富。例えば、心身ともに健康な生き方として、これらの資源と、ライフサイエンスなど他分野の資源を融合し、週末居住や観光の新たなスタイルを体感できる「WAKASAリフレッシュエリア」をつくり、関西をはじめ国内外の都市圏住民に向けて発信したい。

このように様々な資源の融合を促進するため、新たなイノベーションを起こすワークショップやセミナーなどを万博期間中に開催するなど、全国の各地域・各分野の人々の交流を活発化してはどうか。

これらの成果をもとに、関西をはじめ関東、中京、北陸など国内全域で人の行き来がさらに活発化することにより、関西圏と首都圏等をむすぶ高速交通体系の早期完成を後押しし、関西全体の持続的な発展につながることを期待する。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

● **SDGs 実現に向け、地球と人類の歴史を見える化する“年縞”の発信**

SDGs 実現のためには、これまで続いてきた地球や人類の歴史を学ぶことが極めて重要。福井県の水月湖「年縞」は、化石や遺跡の年代を測定する世界標準の基準。年縞の成分から、1 万年以上前の地球でわずか数年に平均気温が 5～7 度上昇したことが判明。さらに湖近くの遺跡の出土品をもとに、8 千年続いた縄文時代の生活の様子も年単位でわかる。

福井県では、年縞をもとに立命館大学、東京大学、英オックスフォード大学等と連携して年代測定や気候変動などの研究を推進。研究成果を万博会場で世界に発信、さらに深化させたい。

● **心身ともに健康な生き方を支える“地域文化”の発信**

歴史を重ね地域に根付いてきた「文化」には、人々の体と心の健康につながる数多くの要素がある。健康をテーマに地域文化を集結して一堂に展示する。

<例>

① **人と自然の調和や静寂を重んじる“禅（ZEN）”**

1893 年シカゴ万博（第 1 回万国宗教会議）で福井県出身の釈宗演しゃくそうえんが講演したことをきっかけに“禅”の精神が世界に浸透。今回の万博でも座禅体験、精進料理などを通じて禅文化を発信してはどうか。

② **御食国から受け継がれる自然の素材を活かした“和食”**

健康的な“和食”は世界遺産に登録され国際的評価が高い。とくに御食国といわれた淡路・若狭・志摩地域は、自然素材を活かした食の宝庫。京都・兵庫・福井・三重が連携して 2017 年から「御食国・和食の祭典」を開催している。これら関西の和食文化を発信してはどうか。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

● **万博会場と直結する「本町（船場エリア）」にウェルカムゾーンの設定**

大阪駅から万博会場への乗換地点となる「本町（船場エリア）」において、協力店を募集し、各店舗で会場案内やチケット・グッズ販売などを行うウェルカムゾーンを設定してはどうか。このエリアにある福井県大阪事務所も PR に協力したい。

以上